

續門葉和歌集 四五六

和書門			
二	五	九	四
六	八	四	
函	架	冊	類

內閣文庫		
二	五	九
四	四	四
函	架	冊

內閣文庫	
番號	和 25594
冊數	4 ( 2 )
函號	200 225



和學講談所  
館印

和學講談所  
淺草文庫

續門葉和歌集卷第四

秋歌上

秋のつめ乃方とそよとゆりき

前大僧正 貫海

時もあはれいまこそ風乃身ふり

あややいふ秋やきみめり

前大僧正 實賢

日くすへたもぬありれもいゝあそ

志のいかりふりあはれきりらるる

早秋乃風といつふ

七

前大僧正 聖慈

いまよりすくなくありぬかき雲乃  
一の葉もけの秋のちろろせ  
題あつあ

さつひいそくゆくへき方と秋も花ハ  
たそきして系秋乃うらうせ  
初乃早秋こいへ系あそよめ系

蓮花院右主丸

いしーとけささあふーまぬ風あふ  
ゆふと流より持秋とあつあ

初秋の方とて

前持僧正 通海

霧ハいまこは花もやうて交城野乃  
草のちろろよかふ秋うせ

初秋風こいへ系あつあ

法下静運

かけろふ乃と野こみかこのあつあ  
ほのうまかふあつあ

寶池院辰徳丸

とよりろあつあ

風あすけりしち家庭乃むらさきりり

題あきしき

何園梨懐銘

けさよりりいよといふきこえてあきしき  
志家きこえま交乃りりのしたるを

良殿法師

うはくゆくあきこひりの風のききた  
るくぬ色おふまじり思ひ白うか

霧知秋こいへ家つとよめ家

檀律師宣遍

とさかから風はせあき先夕と流乃

霧の色ふとあきこひきつよたり

憲山法師

先よらぬ秋乃あきれを人こき  
風よりほよといこころへん

右大弁光俊朝卜家の書よよみ

侍りも家方の中よ

義淳法師

夏ころもほすうこす流はひか  
あまのかく山秋風うみく

秋のあ乃中よ

宮傍正 道性

いささせとまらば家よりも天の川  
いささせとまらば家よりも天の川  
永仁二年長尾宮乃方合よ七夕  
契久といへ家又と

法平定枝

まの徳よあふ流るるうへて七夕の  
たぬぬ中らや契とす人多ん  
何きき方ふ 権律師頼驗  
あまの何らうのいささせとまらば

ちきりもとらぬかこきり

魁老ら安 権女傍都定耀

心う秋乃いささせとまらば  
契よいささせとまらば

秋乃哥の中又義淳法師

た母けす家やせのぬさの夕あは  
ちやいささせとまらば

七夕方よりあ家

母はともあうさよとらや七夕乃  
金剛後摩尼丸

よき事してあきことハ歎きとすらん  
人間五十年下天一晝夜乃こころ  
あて七夕とよらん侍りまらぬ

前持僧正 通海

あめのいたい我ら乃あきこと一歎き  
いふよよらりぬほし阿比の元  
是志らあ 三寶院子平丸  
たはうらるる我を袖ふははらも  
あみさあきころあらしあらしを  
野を越といふ家つを

蓮慈院王僧丸

こころあき草乃たもとも秋はまを  
ぬあかあらしの野へ乃夕を越  
山居秋夕といへ家つを

法平實為

松乃どのまきよゆふひへたたりて  
霧らりらあかあきこの山を  
五十首乃あらし侍りまらぬ

法平靜運

いこころあらし侍りまらぬ

袖乃るのみさつよ秋風花さく  
とほ家ひとあきやこの萩のいた  
たうあうりて花かよふ秋風

むさく歩

阿闍梨憲家

うきとせうりあうりのいふへうき  
秋よかこゝぬおきこのうしん風

権僧都有嚴

と草も子らうと野へよあふゆ  
むすの葉のこと秋風花さく

権僧都頼聡

いふと花ハなす乃葉もいふあき風よ  
もうたもとさく露うこにはあひ

月前萩といへあきと

権僧都經宗

さひーさをたててといこゝのあき  
月もあきのさあむきのうらうあ

法下覺雅

かせよあひくを乃なすうらう露ちうて  
うらうふ月と萩うとくこゝあ

法下道惠



ほのろり本のかげをたぎめて  
八月しぬぬ露乃ししおき

秋乃方の中よ

宮傍正 道性

あふこも乃たよりすくさぬといつれも  
清らさを持てあ庭のたすけ系

法下長呪

このこよしあつてのあふいははらうし  
身乃もれはれはれのみしおはらん  
秋夕さいあまを

持律師頼臨

うーやたくなあしこ思こあまも  
かふはさりもああきろくたを

題あう歩 法下道惠

園やらうきいひと村すすまふあまを  
さふくうああさろよの月

萬の方こそしうみゆりも家

正園梨頼胤

をくうにふあしとの霧乃あさあけに  
おきろしほれてあきろ風を吹

蓮慈院土用兼丸

ほよいてぬらうくうまのの露  
まよいていまのの秋の夕暮

野蘭をよめ糸

持律師兼勝

きつても見せたらなうくく持たらぬ  
ほころふ糸野乃あきの夕霧

永仁二年長尾宮より合よ草花知  
秋といへ糸ころとよめ糸

持大僧於覚継

さきかゝる糸らうこの花乃いろくも  
むらうつよ秋や志糸うん

草花初開といへ糸つを

持律師義俊

さき持母を糸枝、持るのい巻女郎花  
らるあにを糸ころふ糸露をくねて

魁あう歩 法眼顯惠

ころあこはるのいぬのよ女郎花  
らるるあうくくを糸糸あう糸露

大宰持師資實乃より女郎花

をこい侍りけふよはしらすとよ  
侍り妻系 念寐上人

女郎花のち乃秋とまたのまねん  
ほゆものこさすううはるふ  
萩露とよめ系

檀伽佛都經覺

をきあぬはゆとこをへんくらあ  
か路乃志くあ系野への秋の事  
夕萩としくふりや

法下隆勝

ゆふら秋のらくとまげてうん  
あを掛てうま系たきの志く露

報恩院嘉寶丸

ゆふら秋乃らきあうぬま乃らま  
露も志り乃色掛うはるふ

茶大納言 具房家三の合よ萩露路と  
しくふりや 阿周利末覺玄

露ハ掛てたうはるふきうな  
ゆふらこの秋とまこの花  
風前萩としくふりや

圓性法師

志ほほしは花野うらはゆかきと  
うきよ色持ふあきこの花

秋のあきの中よ

檀か傍部道順

いふ口さす野へうらさすきりきりて  
うらさすきりきりよのうら秋風

野々をさしりあつと

蓮蔵院右主丸

花乃色しうさすきりかきあつとこの

野へさすふくぬやまのあきうき

百首のあきうき伝りきり中よ秋の

あきうきあき 隆深法師

いふさりのうら秋ゆくみねの秋風よ

ふとこの野へもあきうきうきあき

秋といふを 阿闍梨田海

いふをさすうさすあきの色はほのうき  
いふさうらうきあきうきあきうき

檀か傍部頼聡

たよ河乃いさうきうきうきうき

浪持す急葉乃あまこいほあ  
物霧こいへあまをよめあ

用性法師

たらし母をまきありのへだての影か  
志りうくあまあきのこのを

文集乃中よ秋風海被渡といふ

こころを 秋如院弥鶴丸

あつ積志あまみこのあまをかとき  
たのしよあまあまきのゆふを

夕草花こいへあまを

檀大僧都公性

よくあまも色やあまこいにほあ  
花しらくこころをのゆふと積

志あまを 法不定教

時まぬあまの乃あまをみりて  
ゆふと積志あまの袖乃秋風

阿闍梨院淳

よまこい思ひしれぬまも  
あまのゆふに積こころあま

前大僧正定辨古今乃詞を中に

草をよみおのゝ秋乃ちよきせ侍り  
あきふよ子草まゝいづるまを  
野へんれハ子草まゝいづるまを  
花の色よくあきこのゆふあ

草あきと 権律師定叡

あきをよみあきこのゆふあ  
みづ流れてはくふ野へ乃ちあ  
夕雲をよみあきこのゆふあ  
ゆふら流るるあきこのゆふあ

阿闍梨範親

はゆふあきこのゆふあ

秋雲をよみあきこのゆふあ

法下道惠

かきりり子いふの思あきこのゆふあ  
まのあきこのゆふあ

前大僧正 覚海

あきこのゆふあ  
あきこのゆふあ

庭乃雲を 権僧都運雅

庭乃雲を 権僧都運雅

うつさぬ母をまらさくも我さく  
月前初鴈といへ家ごと

感琳院観音丸

す母を月乃あさ乃あつれもふきよた  
ねさあさひりすくろり乃急

理性院子福丸

何とあはれ月乃す母よの秋の元よ  
しとほくすくおろり乃急

題志く安

杖如院耶丸

ひさく乃月よらさくろや母すしき母

秋をよすれぬかり乃玉つさ

地蔵院女福丸

こ急はまをすきぬおあさんろよふまり  
何しよ母ろふかり乃一行

月前麻といへ家つとよあ家

権が傍教院覚

ともいもにあきろあつれとすめまり  
月い法家やまのこをろり急

前権僧正 教範

よとすろをの草ろ月さく

志のふらふらあまのうらやまのうらやま  
大みねのうらやまのうらやまのうらやま  
よの鳥もついでのとらふたのうらやま  
さやまのうらやまのうらやまのうらやま  
えゆりもついでのとらふたのうらやま  
らふらふらうらやまのうらやまのうらやま  
いふらふらうらやまのうらやまのうらやま  
兼麻といふうらやまのうらやま

蓮花院王后丸

つまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま

あくあくやまのうらやまのうらやまのうらやま

題名

義淳法師

たう野のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
見れよ人のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
福林寺のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
合のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
るをよる人のうらやまのうらやまのうらやま

報恩院吹若丸

野へのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
むらあられのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま



秋田といふ家よりをよめ家

佛胎上人

小やまこころひらぬるるころよはすきそ  
せうよなをうらく秋の母らうる

報恩院永寿丸

うららあひくいのの雲も志く家じ  
ゆふはゆりのうさきもく秋風

三日月を 宮傍心 道性

とれぬ家う秋と家うこ乃山のをた  
まらんとせれ母家三日月乃親

檀越僧都經覺

いほりゆうりやまのくらくかきき  
るるはよとあま三日月乃親

圓性法師

くらはは家父日のくらあ山の端よ  
まといわかし家三日月の親

待月といふ月をよめ家

法下行巻

山の端をいそいりよとあふり  
まらあうまの月をみるる家

持大僧都公性

いそがしきぬひらりハハ我よんてまう  
まうほいそ我さき山乃んこの月  
鷹司前用白太政大臣家よりて  
をささりてあたてまはり世に  
待月といへおこころを

寛尊法師

まうほいそ乃うらみをとるにこのみん  
かまうあいはぬ月のふさげよ  
むさうあ 法眼覚親

おらこのらの山の端うらまき松も

あられゆるや月のいつらん

報恩院弥勒丸

ひそみうら乃雲をハハ我よ吹るて  
月をさす我ふみねの秋風  
を出山清光といへおつを

蓮花院正僧丸

山のそよのほらひらりハハのんそ  
たうまこのまふお月をやすらふ  
むさうあ 法平道惠

あさくらふあしを掛るにさき  
雲乃あしゆくあさくらあし月

蓮花院土用夜丸

ふきゆけ八月乃ためとや秋の瑞よ  
あし乃掛るの雲もれこらぬ

河月とよめ家

檀坊初定耀

あすこハキこのふよかたらあさきの上  
に  
あされあ月ハふらせこもる

檀律師義俊

いんぐねとつはに親掛へて  
月よとつこ家やの河乃水

野月こいあを蓮蔵院愛丸

よとすうらましく家草葉のりては  
月のすすん家せさう野のあ

田家月を

檀律師義俊

ありあす田つら乃いほ又親さそ  
いあそ乃雲八月もへたそあ

檀坊初定養

いあそらあこ小田乃うりは

いづれ月乃うきと海乃人  
海乃月と 法橋覺能

山あいのうみうきと海乃人  
いづれ月乃うきと海乃人

阿闍梨遍曉

あまのふね月と友よやいてぬらん  
いづれ月乃うきと海乃人

後毫法師

たしまのきつ浦乃と海乃人  
いづれ月乃うきと海乃人

八月十五夜よ月と友よやいて十五  
首乃あきとよらんてしれきる  
人のしんはつりゆりくる中よ

法下憲淳

いづれ月乃うきと海乃人  
いづれ月乃うきと海乃人

漸空上人

いづれ月乃うきと海乃人  
いづれ月乃うきと海乃人

良賢法師

いづれ月乃うきと海乃人

さつりよ乃いとにかりれぬ志らるる  
やとらふ月とらせやまほしん

蓮花院右王丸

心のまにち我あふ雲と我ひまそ  
月よと志らうきあしうら

定秋月ぬといへふマをよめふ

法下真傲

いらまう我らゆく月の秋と  
いららまらしていら我らん

若雨月といふふ心をよめふ

續口業和詩集 法下實勝

あふまぬありれと月にうらてや  
志らうとらう母をわすすての心

續口葉和歌集卷第五

秋新下

東大寺若宮のま合よ野月とし家

ころそ

前大僧正 聖忠

うてあ終てあま乃野うとよけの地  
月うけさううあ地こほあ

山月とし家つとよあ家

前僧正 通海

たうね入たう終よ月うら終りあ  
あとのあまとしれいあうあ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

人乃むらびんよして百首のうらや  
ゆりもろよ月乃ちあとしてよあま

橙が傍が経貫

何あれはう積もあさひ乃かすあま  
あひさ家月よらものひさあま

蓮花院愛戴丸

うらふうまうもこのうらぬやまの端乃  
月よのうくあま乃秋風

有京月とく家あや

有京月とく家あや  
新大徳心 聖意

あまのうらやのうらあはあとあうりて  
あうまあはう乃月うのうらあ

あつまよすんゆりもろよ大徳のま経  
乃とらうりあうらにかりぬ月の西

親とみやこのほらはいくすあまらん戸  
とらうりゆりもろあま

法下憲淳

あにをうかんうのうとたのまにし  
月とみやこよたうりりあは

月あかりもあまあしすうらひさう

まゝめてよきと作りきり

檀律師頼賢

たれよりハあり終りくつ終んひさうん系

こころしり乃秋の葉の月

月為秋友こいぬ回をよめ系

遍智院瀧一丸

友とる系こころや終りよりよめ系

月もさるひきあそらふ乃やと

山家月といふ家よりと

檀少僧都教有

すんくそ母こころいほりと思ひに  
月又こころ終りいれぬへす

法下隆勝

まゝそあくやとこころやよのあきうせま  
たまらぬ月乃かけそさるひす

仙翁法師

ま終のこことたのみみやあつたのえ  
あきの葉まげの月もすんけり

田家月といふ系とよめ系

法下相助



あはれと申すは家多しと申すは思ふは母  
やまゝのいほは八月もちりもり

月方の中よ 法下云詔

よのねりふまみこよやつすあきこよ  
月、我うとまよとちりハ志をうめ

獨見月といへ詔云詔

法下実為

月、我うとまよとちりハ志をうめ  
ちりハ志をうめとちりハ志をうめ

百首方よつと侍りもるよ月の言を

法下定任

月とらるるあはれと申すは思ふは母  
あはれと申すは家多しと申すは思ふは母

月前感恩といへ詔云詔

法眼覚親

あはれと申すは家多しと申すは思ふは母  
あはれと申すは家多しと申すは思ふは母

人乃す先傳りもる撰云合の中よ

月のうとまよとちりハ志をうめ

法下寛惠

うきことのしらすらあしめてよじ月を  
ろそししものころなみいおはらん

月の十首をよと侍りもる申よ

檀律師因後

いほうりうさ世のあきとのれそ  
まじうのはりの月をかたへす

秋方の中よふうめ系

石園梨後敵

とふすきすきすの珠よ露ちと  
もの志はくは月うやとる系

月乃百首よふうと侍りもる申よ

鎌海法師

らゆももしころあやと免ぬるめ系  
月うちをら乃母うととのを

山月出秀方といふを

檀律師定敵

たらこじふやまハすうとらんてまて  
きりうりいほああさこのあ乃月

月の十五首乃方とよと侍り申よ

報恩院永寿丸

やまのちよいりぬと見れはうこも乃  
まらぬあともまらぬ月の子け

題ありと  
檀か僧都運雅

いぬもてとてやうんやん母月のあろ  
ころのころぬあきこの勢のせう

月十五首のちよみゆりまら中よ

愚者法師

いぬもてとてやうんやん母月のあろ  
ころのころぬあきこの勢のせう

月のちよとてよめ

檀か僧都教

ありあけ乃月いさやけきやまのち  
あそかあうあふさそりくのそ

題ありと  
希大僧正 定海

まらえそとるあこあいよあきの勢  
あまのいづかありあまの月

福徳法師

まらえそとるあこあいよあきの勢  
あまのいづかありあまの月

八月十五夜よあふ人十五首のちよ

とらち侍をりぬ—の中よ

法下道惠

いづはらよいづはら世よふふ月をたて  
みうらうはら—杖持をりき

老後見月といふふ心よめ候

法下公紹

せりか—より月か—とらちありき  
ありき杖を老乃志を—ありきふ

法下親瑜

いづはらよいづはら杖をりぬ

今いくあきうけありあけの月

月のあけ乃申よ法下定教

月よりとやまのこらうくありにたり

よりよいの中やせう—まりをん

閑居曉月といふふ心を談侍を候

法下隆勝

いざこぬ庭はさまのうあさこらふ乃  
を候よいづはらふあり阿耨の月

若雨曉月といふふ心を

法下実勝

る津路山みぬ乃松風ひくきこて  
おのへ乃かねよ月共かこみく

阿闍梨頼胤

いつふもちの流くしてまづまや  
信海もきまのあきの来乃月  
乞きらす  
やまのらよわかこあく月とあまを  
らやあつきことかねるきこゆふ  
惜曉月こいふあまを

檀律師兼勝

月とまこあつれとねへあまのこ  
あくふあまをさきとせこらな

秋奈の中よ 法平道惠

かりうねとこまらよすきそい  
うこかけ持座よらひき

檀少僧部運雅

るるまこにうはるふけかすくさ  
くまきこらひきあをほの月  
海色秋曙とこいふあまを

法平憲淳

あふふあふの月ハ浪まにかつふききて  
うすきりしりたきのこきま

題云くあ

檀少僧都頼聡

あふふあふの月ハ浪まにかつふききてありあけり  
月ハ世こゆ流す急乃まらやま

報恩院如意珠丸

あけかろ月ハかろ流すて浦さき  
たきのこきまに旁方のこれふ

有ぬ月と流ふ

阿闍梨隆淳

いほふことおのへろ月とまろ母と流ハ

ろやうけうすし晨ゆのせえん

傾月とまろてよろとゆりもふ

阿闍梨澁永

月ハや山もとろろくあふふきて  
こす急ハりにのこふかけうか

題云くあ

寛河院子世若丸

あふふあふの月ハ浪まにかつふききてありあけり  
ありあけりあふとのこりけり

法下隆勝

あふふあふの月ハ浪まにかつふききてありあけり

こころよはのめくあまのいさなりひ

圃性法師

まういさぬ日しげをぢうらなまたちあて

いふくれいぢくみねの秋霧

月影橋衣といふことよめふ

寶池院松葉み丸

こころとういをのゝ里人をのほろろ

祓ぬらうすうら乃月やらんをぢん

寂靜院孫霧丸

あきハたぐあさ母その風とふこころえと

月み母とそやこころもつはらせ

阿闍梨明胤

吹風とをとすまのきこ月かけふ

あさ母そのことハこころもつらあり

秋方の中よ 法平相助

あきむらすすみねのありやこころ

あきの里ハこころもつらあり

里橋衣といふことよめふ

法平道惠

さしやのそ月のはらうのこころえと

孤ぬよすうらうら衣うはるん

阿闍梨宗尋

さうらうのふとをばりきぬ月かげよ

あつさうすうは衣うま

衣夜夢こといふとを

仙兼法師

うらせ入てあまのこぬのをとす也

いほりあうあ家まりのひと母を

霧中槿花をよも侍を

法下在巻

あさうはとやのあぬまかしのこり多

日けへつ法家まりのやうきよ

善秋萩といふ家と

秋如院跡露丸

ゆくあきうす急のこもき花らうて

つゆもうつろふ色うすくふき

水色(菊)と 法下静運

さうきにほふきくれ志く永母すふに

らみて志う海うら川よのあは

橋舎いづくたうまらとに



侍りに永仁のあきの比叟のいりり乃  
之のりよそそ童舞いとたりりろく  
侍りたれハ樂屋のまゝ乃ささくらの枝  
よ母すひはを侍りもむ

よん人志らあ

らまにやうらー其の色くのたとうけを  
おまーささののぶ葉よそかんる

志らあ

律師定叡

もみち葉のぬ流ている其の母りられ  
かさそかんよそやまーくろみ家らん

法平長順

其めはくすお葉とやそそ其ふまり  
志らあーそ乃あとのやまう勢

伊勢のそまへそそ侍りむすそ  
乃お葉とんてよん家

法平定任

ほりよりもみやまのあきろーと流れ  
もみちの色もふくそん書れ  
お葉といへん心と

律師定後

ぬれてゆく袖もあまの色よそあよ  
のみらよあまの心の一しる

秋乃中 義淳法師

うたげて福あうらる秋乃東を  
きく徳ゆへさしなれい多あうら

長月の比治らま終るもくへつら

依り善家 阿周梨憲家

さひさよいこまのしじやまこしら乃  
さうの紫わらぬあまの母さうぬ

ぬーさひさハたわふよこぬあまの

雨よきりの紫りるきやさきくにも

庐山雨来茶庵中こいんつを積家

法下親瑜

あよありしころのいほり乃あめのよ  
まう助のあまころころるありき

野きり歩 校律師良伴

ありすく家あまのすゑころ母さう雨よ  
あま津ゆき家を乃あまらふ

野徑史といくろり

阿周梨洗家

志しきまきしあねのこせらるる  
野へ乃あささらハかれらてぬこも

暁史とよ老家 檀小僧都経覚

ひの物とかすうにありぬありはけの  
月新うすきとらりしと乃よは

言秋史とつハ心とよこ侍りきり

檀小僧都定耀

いまハとてやハ契さ母さる家さうつさ乃  
す急のりりよじりうらん母さまり

寶池院長今丸

とのりぬ乃より縁よはききておぼくの  
あきとら禮ねとじやあくらん

念西法師

よりのり老う別よこそうおしり禮  
あきもいまはのじりのこ急く

權僧正 教範下海系乃坊まで日宿と

うらうみきり申よ菘と

阿闍梨喜喜

老うく乃まらうのしりきりくあ  
よらぬ急こそあられき禮

大徳宗秀朝長家よりて方合し侍  
きりよ言穂乃つとよ先系

蓮花院右王丸

いとくろなるさうりなをめて志すことや  
あまこいしうは乃ありぬの月  
前住傍正 愚深 千日の護摩おこるひ  
量光院よすも侍りもるふ九月  
尺の目もあしもとつまもさ  
をうらみはうらもあおの中よ  
前住傍正 成賢

あつれよもあまのさうれとあまひ  
あま乃志ら侍る心ありも  
情秋といふことあ

阿闍梨隆堅

あにかつてあまをさう母あまうしあ  
法中よりさうまじよ侍やま  
前住傍正 經覚  
志すし法ああまのりうすは法あ  
らう見やたうてあすものうん

續門葉和歌集卷第六

冬歌

初みそ乃方とてより見侍りさるる

前大僧正 定海

みよふはちや秋よりみゆようつとて  
みよより雪よありしれは

法下定住

志ハの少しよかふあしれおとまて  
うひしきく入て冬ハキつよなり  
冬乃方れ中よ

三寶院の平丸

う福てよりよりハの志くれ乃をささ  
ゆふ志くれよかりるむらむら

夕時雨にいつる心誠く先ぬ

地蔵院幸松丸

夕志くれすきぬあはれあこりま  
舟袖ぬら次もすくれ志く露

憲法法師

志くれなる雲のむとむらむら  
又悔りいひるゆふ志くれうか

五十番れあ合志得りしける伊よ時ぬ  
奇とてよゆゆる

阿闍梨憲家

うすくむかひあともあすい父くれ乃  
月うまよそく包じり時ぬうま

時雨乃方とてよとゆるしける

檀律師田後

うす雲れこくかろやれあふ  
むらむらとよらてゆら時ぬか

法下賢助

いふ志くれすくるまていそまけし  
おちよほのけりみうつすの氣

飛山仙洞より南彦御奇合の侍り  
けるよ時雨乃奇とて

宮傍正 道性

うつさしゆくおれいらくもみわえ  
やみハあやあくふるくれ

百首方中よ

いとじうハさうひてすく家やま風ふ  
おろゆるさそ又志くれけり

山時ぬとしふアをよ物ぬぬ

阿闍梨後賢

ふつうんうまこりてれゆこつり  
志られてすく家風乃とと風

神無月れあ人のさそひ侍り

ふつうんうまこりてれゆこつり

人れりとうり思やま山あがりて

雲のあふふりれる袖の時ぬ

尸送侍りとうるぬ

観心院あ夜み丸

みゆのりきき志くれとわらる袖まて  
うなふしれきしとますも道やハすり

里時多といひかみ

法橋覚徳

あきつくとありしに雲れ地きやうて  
やうこのふしにちりり時多ふれ

是しと 守性法師

あきつくとおな一志くれりしり  
月減さあぬむしうもものそ性

法華定教

きりやとりも積も志くれとすきや  
とりの程ゆりもりれ志くれとす

田家時雨と 寂仙法師

う海ゆきしうれいんかハあまは  
人しうもしうね志くれありなり

旅時多といひかみ

法華道徳

まきれ危のしと祿のよハのしと  
海うとくもえいとうさうあ

神之月乃らる祿共寺よすくゆり



けり下り嶺のさくららのりみかへゆるよ  
時々の梅りさよまはるはよるはゆるけぬ

檀律師田俊

花よみかへ嶺のさくらハりみちりて  
梅もぬるとよ梅り時ぬりな

題しす 前檀律師 兼範

時ぬとぬてあきよりちきさくしりま記のやよ  
さきよよりちと梅りこの葉うれ

さる乃方れ申よ

前大僧正 静叡

雲やうふははりれ山のさくらゆるり

とのま志かをれてらりこのハるさ

嘉元二年九月乃ころ龜山の仙洞よえ

南庭の山方合よな落葉さいりすん

よこゆるけり 檀か偽都道順

若よころさこののちりとなよハようけて

ありれあつらぬ紫城うみぬ

高紫方さよる 阿闍梨全成

庭乃ありよ秋のこのり城うりよさそ

いらたき風う松よ乃こ積ぬ

法平淨真

たほあさましきとせしよのたぢらねん  
まゝ、梅くももの、急のすくたまふ、

右のれ落葉城 法平定教

あはよしたのこのまゝのやまのせり  
梅ちささまみまゝおひかりみちハ

是きき歩 前大僧正 聖忠

梅ちのり庭のこのまゝあまこころ  
のきとまゝこれのまゝななりぬる

法平急教

さそいこころす急ハようにととこそ

うぬあまて城おちらふようこころ

阿闍梨憲家

このまらるうへをれゆふられ年

志られさやうぬうこころれを

蓮花院右止磨

ととハうり松よきこころのやまのまろ  
ちくうこみせしらる年のハうま

法平靜運

ちみら初らふりしれ世へのまをこころ

あさこのいろか使山お路しうふ

朝露といふ事哉 観心院孫清丸

じすいといひつゆ乃なきもやこあゆん

まのあささらけさよこのころり露

是しうす 阿闍梨懐結

おををさよん又こころこれあう地やう

やまらけく清茅露とらうりうも

枯野おとといへる心哉

報恩院嘉寶丸

露わさし子らされをハかれはてく

しそこを路へのちつとみく多れ

おのく百首奇よんゆりけりよ泥寒蘆

こいへぬ事哉 釈迦院孫鶴丸

あよハくやかまハのあーのよ路こ終て

こほろあつけの志もろさむまき

枯野とよ先家

龜部院遊一丸

おのひつう志りよかきゆあさこのらよ

る成をとりの花野人のこころ

枯野月といふ事哉

蓮慈院巻二九

さしひらくはかまのく草のーものうへふ  
こがまいる月のあつめの秋

橋津國は法の入をすまはるる  
寒蓋紙をてよめる

同院三傳丸

さすし志かのみめの入にようせこころ  
あかた、あしのよはのさむじま

水の音とて 威樹院觀音丸

りみちのうらなみーあといまはとめ

あま紙へこひらうすこりりうま

百首のあれ申よ

前大傳正 重道

おろつうあつむあもしんたり  
うこやてこりあその山川

あきの月と

前傳傳正 通海

雲れみよあうた、新はらわくとあま  
こりてよと然あらのよの月

あまの奇とてよあま

持律師頼巖

かとおろりああ〜のすゑとていじ  
書けよらりるみひのうきいふ

あはれいといふこと

阿闍梨成祐

わなまきつるゆいとあはれい  
みの〜強あも不決いまも

是あ〜あ

報恩院孫勒丸

ふ〜のひあ〜とほ〜れみひ  
さ〜めぬ〜り〜あ〜

権少僧都勝玄

か〜い〜と〜ら〜の〜さ〜と〜い〜あ〜て〜  
あ〜の〜す〜あ〜よ〜い〜あ〜り〜さ〜ぬ

蓮慈院志丸

あ〜ら〜り〜新〜あ〜強〜か〜い〜ま〜い〜あ〜  
あ〜い〜の〜ら〜よ〜い〜り〜あ〜さ〜あ〜ね

漢書といふこと

報恩院吐若丸

あ〜い〜と〜と〜ら〜ら〜あ〜い〜す〜あ〜ん〜せ  
ま〜ゆ〜い〜強〜あ〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜

深きよ

檀が傍に有る

いづれとてうらのまのまろく音ぬく、  
ことしはへるまにまろくひり続よるり

夜音とよゆらぬ

阿闍梨種淳

ひらくもよからぬかともすしつゝあ

光とみゆるふかのしつゝゆた

音乃ありけるよ月ありけりけり

こゝろよゆらぬ 因静上人

まろくゆきのの夜よぬりまろくふゆの夜ハ

いづれとてうらのまのまろく

俱舎三十遠つとめて上醍醐小

すえ侍りけるこゝろあつ月の月出ま

あよ音ありけるまろくゆらける

法下憲淳

こがろくのみのみゆらすとも音らりて

月かすこゝろありあまかのやま

前民アはあがり家よそよ命侍り

よ遠山曙音としつゝこゝろ

檀師益勝

あなやうぬうられ光りさきこころて  
雲もふふあうじ雪の山乃ハ

朝雪といふよりとよめり

権少僧都定耀

ことらうきおのへのまうハみとりよそ  
うを山志ろー雪の何さあき

権少僧都頼聡

なまハ又乃きのあまひとるかりにかり  
ころろとみーハの白雪

上乃醍醐よこもしておこぬいゆり

けりよ雪あうくありけりあう月何う

井乃あなとこかとして根本尊師の

昔とふ出くようをゆりしけり

権少僧都道順

雪あうき谷のーあもわうやまの

あまにーあとなとらねてうとあき

雪中煙といふるを

蓮慈院志丸

ふんろうこつてつあまやとらりゆら母

あとのあまにーあうりかりころなかり

庭音こりりつるまはるをふりあふ

清浄光院鶴若丸

わづらひてと人などいふへきみらしたる

いふまゝいん庭乃志らゆは

法眼賢増

しつゝいゝさうてても人のこゝろさう

思ふこゝろはよハの志らゆは

後毫法師

木のつらうさひらく人たさうけとて

志らひとある庭のしつゝ音

権律師賢枝

ういさへきん一あけまハ庭のゆき

きふあゝと紙やうさハまう海

雪代朝よ醍醐より龍中納 為意代人

しつゝいゝさうてても人のこゝろさう

法下憲淳

いふさふらうてみやこの庭との雪代庭ふ

かよふこゝろらあゝと紙みき海

むしつゝいゝさうてても人のこゝろさう

この音よまうとをれぬあゝと持



物事

新海書といへる文紙よめる

義淳法師

姉妹御事しこし申山言ハあれと

言ふところありかちよるとうゆく

後宿書といへる文紙

法下なる書

兼乃ちよとゆきふらやあつ紙つなほ

ゆたにみちゆくいひきあうはま

海島書と

權律師賢卷

あまハきりゆり阿とよあやそ志うたえの

うすりるきこすき書のおりけ

三寶院子手丸

うつのもいぬしからせまうことみなう

書れ浪しす浦乃とらうし書

江上書る書といへる文紙よる伝け

報恩院永壽曆

みるかよしりしるあハおきたをひ

まんよこすこる書のひとじり

日者七百そあれ申よ

法下長順

志うれうしやこふるみきこのひらくよ  
あみ城のこしつりる志うゆき  
上醜翻よ侍りけるあみれむり  
三升ちへすおちよまふ城あさうす  
あまもさして醜翻へり侍りよまふ  
僧とまふふんてあくまめ侍りけるよ  
湖上晴雪といへるま城よめり

遮那院松若丸

かうさうや松のハ志ろくもあひまの

あみよあとのまきあまがのさう  
あつまよりりりり侍りけるよ晴小  
志うれうしやとあひてよみ侍りける  
法眼完辨

権大僧都運雅

あみいりるひらふおろしあまて  
さうあこ志強し志うのうらま  
思雪と  
風ようらんあ強よか流しわらけも  
雪りのうねをうのくすも  
松雪と  
権大僧都公性

おのつらうかふあしと梅さして  
ゆきのこころつじをりのよひうえ

蓮花院右王曆

枝多きこころ入るふら乃かきるを  
雪ふりぬこころぬささのこころひ地

定性法師

物りさきあかこころ急の雪ふこころり  
きこころつじすき松のこころ家

冬は方外中は 法華定住

きこころ松のあしのこころまて

こころかとあかみののきこころゆき

蓮花院右王曆

ありてきこころかこころぬこころあしひてや  
きこころこころすか松のきこころゆき

阿闍梨憲家

おのへうり風こころゆきこころあしこころ  
あしこの松りおほるきこころゆき

行吾とよあり 法下寛恵

まのこあしはこころよもあしこころさう花ハ  
まのきれこころけよつこころあしこころゆき

檀律師後

音物りかともみしす急しく交うへて  
ゆきこをなうひまよとのくれけ

寶池院寐玉丸

物とおりの枝より言やうりやう舞  
かたまけうつひの志くみち

前檀師正 菴範

もつりりゆきのしるまかくれ行や  
うつりかこむらあとするらん

百首のあうんゆりなう申よ言の

舞とくよあめり

法下公紹

うじめりかこむらあをつらげむら  
物りのおとらみからこし

物雁鳥持といへるお申

檀律師良伊

なまこいあしゆきころあまころあは  
まれ乃といそく野へのこく

日若七百そのなれ申よ雁鳥持

よみゆりける 法下公順

とまぬととれかりゆいこのあまの  
すうのいさあふりきて次こりれ

百首れあろ中よ山霞といつる

権律師頼詮

山分りきうれあふきぬうてさうて

あふれあふりあふりみゆれこりし

竹藪と  
権か傍都定耀

うらうよくやうのさこのけのふれさ

ゆ免とのこをともかりゆうまうな

冬れ方とて  
権律師宣魚

ふれさひこりよのこさうてりああ免の

あふれよあふりあふりさあふり

冬月といつる心紙

権律師益勝

おろくをあふり終てり終てじうの

い海りる月のうまそさうしうま

百首あふりて中納言定家なる

つらうしうま中よ

法下あふり

月乃夜ハ流りあふりあふりあふり

浪れ枕より新とたうへへ  
停す乃に何なる浪よあをたうへ  
いりまのりよみく

前権僧正 通海

いすく川たるせあらしり水とり乃  
あを葉よのりあをこのりゆき

題しらす 蓮花院王傍丸

水とる家このりゆきまのりまこて  
浪とあを積よらるる海かしきり

江戸巻と 秋庭院孫鶴丸

船とひり入江のうきる孫柱あきして  
あを浪とりりあとりあをく形あ

前大納言具房百首れあをすめ侍  
りまのり湊あをといふ事と

権少将都道順

すきあをかりゆくのうきまのりあを  
とあをる月と浪よのこして  
浪あをよめ

権少僧都有嚴

いすく川とあをひのうきまのりあを

然りりかやくあまやまうらん

島子島を 権律師圓後

さひしとやわたさう鴻もりまてわひを

とまのちの島月よたかく急

但淳法師

月さゆりあふういされ浪まう

手られぬものとなぐりあとり成

前権僧正 通海

かこのものをまよさうさうまれく子島

いんこうさうあさめ夢のうらみ

題しらす 法平長順

あふいそにせうる浪乃そけを

かへ続かうへるとりおとりう那

蓮慈院王僧丸

夜やさしきいそ山あふりそとあけ

月すじうらにふとりれとまり

をれ方とて 義淳法師

あふえれらたこの風やさじし

しも夜れはるもつとらうふなり

神示とよめる 法平相助

庭火をくくまより八神のこころまで  
うちつけぬまきまをれしる言

義淳法師

楚乃の海のむらよさう死をとらうと  
おまののけりしとわらたまふ  
あれ方れ申よ

法平隆勝

さゝぬあり親もみしりきまれ日乃  
ふく媽くふよの海じしる言

歳言れ方れ申よ

前権僧正通海

梅くと思ふ心ハ我身よつきまれと  
さうもさう海う勢だうてうりあ  
前権僧正成賢すくめうりら時の方  
れ中よ黄昏と

法平深賢

津色くと昔り年とすすなり  
ら楚らあまつれ入合の種  
歳言のらと

法平隆勝







